公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスMIRAI			
○保護者評価実施期間	令和8年　1月　30日	～	令和8年　2月　13日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	18名	（回答者数）	12名
○従業者評価実施期間	令和8年　1月　30日	～	令和8年　2月　13日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3名	（回答者数）	3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　2月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性に応じた個別対応と環境調整を行い、安心して参加できる集団活動を実施しています。また、強みを活かし、選択や目標設定の機会を通して自己決定を大切にした支援を行っています。	集団活動の中においても一人ひとりの特性やその日の状況に応じた個別対応を行い、安心して参加できる環境づくりを意識しています。活動内容や座席配置、役割分担などを柔軟に調整し、子どもたちが無理なく力を発揮できるよう工夫しています。また、子どもたちの強みや得意なことに着目し、自己決定や目標設定の機会を大切にしています。選択肢を提示する、考える時間を確保する、自分の言葉で気持ちや目標を表現できるよう支援するなど、意思決定から意思実現につながる取組を意識的に行っております。	職員間での情報共有や支援方法の検討を継続し、個々の特性に応じた関わりをより深めていきます。また、研修等を通して支援の専門性を高めるとともに、子どもたちが自己決定できる場面をさらに増やし、主体的に活動に参加できる環境づくりの充実を図ってまいります。
2	ご本人の体調や状況に配慮し、無理のないペースで安心して通所できる環境づくりを行うとともに、ご利用者様やご家庭のご希望に応じた柔軟な対応ができる体制を整えて支援を行っています。	体調や状況に合わせて活動を調整し、無理のないペースで通所できるよう環境づくりを行うとともに、ご利用者様・ご家庭のご希望に応じた柔軟な対応を行っています。	ご本人の体調や状況に応じた支援について職員間での情報共有をより丁寧に行い、個々に合った通所ペースや過ごし方の検討を継続してまいります。また、ご家庭との連携を深めながら、安心して利用できる環境づくりと柔軟な受け入れ体制の充実に努めてまいります。
3	実際の店舗でのお買い物体験や外出時の交通ルールの確認、場面に応じた言動（TPO）を学ぶ機会など、社会経験を大切にした支援を行っていることが当事業所の強みです。今後も、地域の中で実践的に学べる機会を充実させてまいります。	社会経験の機会を多く設けることを意識し、活動内容に合わせて視覚的支援を用いた事前確認を行っています。また、お買い物体験では子ども主体の実践的な経験を大切にし、自ら考え行動する力を育む取組を行っております。	社会経験の充実に向けて、公共交通機関の利用体験や役割分担を取り入れたグループ活動、予算を決めた買い物学習など、より実生活に近い体験の機会を広げてまいります。また、活動前の視覚的な事前確認と活動後の振り返りを丁寧に行い、経験が定着するよう支援の質の向上に努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者のご要望やお子さまー人ひとりの状況に応じて柔軟に対応しているため、場合によっては当初予定していたスケジュールを変更することがあります。柔軟性を大切にしている反面、活動予定が変わることがある点は、今後さらに工夫や調整が必要な課題であると考えております。	個別性や安全面を重視していることが要因ですが、その結果、見通しが持ちにくくなることが課題と考えております。	活動内容や変更点について事前に分かりやすくお伝えし、代替案を提示するなど見通しを持ちやすい工夫をしていきます。また、職員間での情報共有をより徹底し、急な変更が生じた際にも丁寧な説明と対応ができる体制づくりに取り組んでまいります。
2	保護者との連携を大切にしておりますが、活動の様子や支援内容の伝え方については、より分かりやすく具体的にお伝えできるよう工夫を重ねていく必要があると考えております。連絡帳や送迎時の説明方法などについて、さらなる改善に努めてまいります。	保護者との連携を重視し、日々の連絡帳や送迎時のやり取りを中心に情報共有を行っておりますが、伝達方法が口頭や限られた記載内容に偏りやすいことから、活動の様子や支援の意図が十分に伝わりにくい場合があることが要因と考えております。	連絡帳の記載内容を具体的にすることや、毎月のおたよりを活用し写真・活動報告など情報共有の方法を工夫してまいります。また、送迎時の説明をより丁寧に行うとともに、必要に応じて面談の機会を設けるなど、保護者の皆さまに支援内容や意図が分かりやすく伝わる体制づくりに取り組んでまいります。
3	現在は、安全面や人員体制等を踏まえ、医療的ケアが必要なお子さまの受け入れは行っておりません。引き続き、当事業所の体制の中で質の高い支援を提供できるよう努めてまいります。	医療的ケアに対応するためには、専門的な知識や資格を有する職員配置、医療機関との連携体制、設備面の整備などが必要となりますが、現状の人員体制や設備面では十分な受け入れ体制が整っていないことが要因であると考えております。	医療的ケアに対応するためには、専門職の確保や職員研修の充実、医療機関との連携体制の構築、設備面の整備などが必要となります。今後も制度や地域の状況を踏まえながら、情報収集や体制の在り方について検討を重ねてまいります。